

2016 年 12 月 1 日～ 2026 年 5 月 31 日の間に 当科においてドパミントランスポータシンチグラフィを受けられた 方及びご家族の方へ

—「ドパミントランスポータシンチグラフィにおける早期像の有用性に関する検討」への
ご協力をお願い—

本研究の内容は、研究に参加される方の権利を守るため、研究を実施することの適否について川崎医科大学・同附属病院倫理委員会にて審査され、既に審議を受け、承認を得ています。また、学長と病院長の許可を得ています。

研究責任者	川崎医科大学総合医療センター	中央放射線部	診療放射線技師	宮井 将宏
研究分担者	川崎医科大学総合医療センター	中央放射線部	診療放射線技師	吉田 誠
	川崎医科大学総合医療センター	中央放射線部	診療放射線技師	城野 弘樹

1. 研究の概要

パーキンソン症候群 (PS) やレビー小体型認知症 (DLB) では、黒質線条体ドパミン神経細胞の変性に伴い、ドパミントランスポータ (DAT) 密度が低下します。ドパミントランスポータシンチグラフィは、この DAT 密度を評価することで PS や DLB の診断に広く用いられており、通常は投与 3 時間後の後期像を用いて視覚評価および定量評価が行われます。一方、投与 10 分後の早期像は脳血流分布を反映する特徴を有し、神経変性疾患の診断への有用性も報告されています。本研究では、早期像と後期像の定量値の相関を解析し、早期像のみで後期像と同等の診断能が得られるかを評価します。また、深層学習技術である敵対的生成ネットワークを用いて早期像から後期像と同等の画質を有する画像を生成し、その視覚評価への有用性を検討します。本研究により、患者の待機時間短縮および検査負担の軽減につながる新たな撮像法の可能性を検証します。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

2016 年 12 月 1 日～2026 年 5 月 31 日の間に川崎医科大学総合医療センターにおいてドパミントランスポータシンチグラフィを受けられた方 300 名を研究対象とします。

2) 研究期間

倫理委員会承認日～2028 年 3 月 31 日

3) 研究方法

2016 年 12 月 1 日～2026 年 5 月 31 日の間に当院においてドパミントランスポータシンチグラフィを受けられた方で、早期像と後期像の画像を用いて、定量値の相関について解析します。さらに、画像生成技術である敵対性生成ネットワークを用いて早期像から後期像相当の画像を生成し、類似度を評価します。

4) 使用する情報の種類

情報：年齢、性別、病歴、カルテ番号、放射線画像 等

5) 情報の保存

この研究に使用した情報は、研究の中止または論文等の発表から5年間、川崎医科大学総合医療センター中央放射線部内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピュータに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。

6) 研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。

また、この研究における個人情報の開示は、あなたが希望される場合にのみ行います。あなたの同意により、ご家族等（父母（親権者）、配偶者、成人の子又は兄弟姉妹等、後見人、保佐人）を交えてお知らせすることもできます。内容についておわかりになりにくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。

この研究は氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの試料・情報が研究に使用されることについて、あなたもしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、2027年12月31日までの間に下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者さんに不利益が生じることはありません。

<問い合わせ・連絡先>

川崎医科大学総合医療センター 中央放射線部

氏名：宮井将宏

電話：086-225-2111 内線 82510（平日：8時30分～17時）

ファックス：086-232-8343

3. 資金と利益相反

この研究において、資金の受入及び使用はありません。

本研究に関する利益相反の有無および内容について、川崎医科大学利益相反委員会に申告し、適正に管理されています。